



秋山研究室

Eizo Akiyama Lab.

Keywords: 進化ゲーム理論; 社会シミュレーション; 実験室実験; 複雑系; 協力行動の進化; 社会的ジレンマ; 金融資産市場; バブルの発生と崩壊



秋山英三
Eizo Akiyama

研究室の目標

- 社会集団での「協力行動」を生むのは、個人の善意だけではありません。
「信頼」の積み上げの連鎖も働きます。
- 金融資産市場のバブルを生むのは、個人の非合理性だけではありません。
他者の戦略の合理的読み合いの連鎖も働きます。

この二つに共通するのは、個人の意思決定が相互作用を通じて「集団現象」として現れることです。当研究室では、そのメカニズムを論・シミュレーション・実験で解き明かします。

現在は、主に以下2つのトピックの研究に取り組んでいます。

協力行動の進化

「自己犠牲を伴う状況でなぜ助ける？」— ダーウィンを悩ませたこの謎は、いま経済学、生物学などの分野で部分的に解けはじめています。
どうすれば、社会集団で協力行動を促進できるのか？

進化ゲーム理論では、協力行動を促進する有力なメカニズムとして、血縁の他、互惠、評判、ネットワーク構造、集団の階層化などを見いだしてきました (M.A. Nowak, 2006)。

当研究室では、社会シミュレーションおよび実験室実験により、人間の行動と相互作用が協力進化を促すメカニズムを探索・拡張します。



実験室資産市場とバブル

「なぜ、市場ではバブルが生まれ、そして崩れるのでしょうか？」

実験室市場では、資産の真の価値をたとえみなが知っている環境でも、バブルが発生してしまうことが知られています (V.Smith et al. 1988)。当研究室は、市場の情報の不足や理解の揺れ、経験による学習、そして他者を読む行動が重なり合うとき、人々の信念の形成と取引行動がどう変化し、**市場の熱狂と崩壊がどう発生するのか**を分析します。

人間心理と戦略的相互作用が生む集団現象としてバブルを解明します。

以上の2つに加えて、リスク環境下の社会心理学的行動、SNSにおける自己組織化現象、各種の複雑系現象など、多様なテーマに対して、社会シミュレーションと行動実験を軸に取り組んでいます。

※ ホームページの文献データで確認して下さい。

メッセージ

大学院生活では、**自分が価値を感じた細部**に打ち込むことができます。たとえ他の人からは無意味に見えたとしても、構わずその細部に没頭する自由が、人生のどの時期よりも大きい時間です。

研究生活には厳しい局面もありますが、同時に、人生の宝の一つとなりうる稀少な季節でもあります。そして最後は、自分が苦心して生み出したものが、世界の小さな一部となる瞬間を過ごすことができます。世界の見方が少しだけでも変わる瞬間を体験することができます。

一緒に研究できることを楽しみにしています。

